

## 東京都立高等学校入学者選抜英語検査改善検討委員会（第4回）会議要旨

- 1 日時 平成29年11月21日（火） 午後4時から午後6時まで
- 2 会場 都庁第一本庁舎25階 115会議室
- 3 欠席者 なし
- 4 協議内容（意見要旨）

### （1）東京都立高等学校入学者選抜英語検査改善検討委員会報告書（案）について

#### （英語検査改善の方向性）

- 資格・検定試験を活用する場合、「話すこと」の試験のみを受験させるか、4技能全てを受験させるかについて、今後検討すべきである。
- 既存の資格・検定試験の問題内容について、東京都が内容を承認するだけでなく、外部試験団体と協力して、作成することが望ましい。
- 資格・検定試験の結果は、東京都が必要とするデータ形式（スコア又はバンド）で提出してもらう必要がある。
- 複数の資格・検定試験の結果を比較するのは困難であり、受験生や保護者の納得性を得ることが難しい。活用する資格・検定試験を一本化することが必要である。

#### （配慮事項）

- 問題作成における東京都の関わり方について明確にしておく必要がある。
- 今後詳細な内容を検討するために庁内に設置する組織について考えていく必要がある。
- 評価結果を安定させ、信頼性のある評価にするため、経験豊富な採点者に十分な研修を行う必要がある。
- 既存の資格・検定試験の評価の仕組みを活用するだけでなく、東京都が求める評価の在り方についても方向性を示す必要がある。
- 守秘義務に関する規則の整備が必要である。民間の資格・検定試験実施団体においても、家庭に受験者がいる者を問題作成者にしないなど問題作成者の資格要件を定める必要がある。

#### （今後の検討事項）

- 「話すこと」の点数を学力検査の点数の中に含めるか、加点分とするか等、入学者選抜での活用方法について検討が必要である。
- 各技能の配点について、十分検討する必要がある。
- 廉価な検査料の設定、保護者負担への配慮といった費用負担の在り方の検討を行うべきである。
- 実施時期や検査結果の活用方法等について、私立高等学校等と協議をし、検討を進めることが必要である。

#### （留意点）

- 英語検査改善の趣旨、方法等について周知し、準備するための期間を十分に確保するとともに、フィージビリティ調査及びプレテスト等を実施する過程を経て制度設計を行うべきである。
- 「話すこと」の検査を実施した場合、中学校の授業に与える影響等の波及効果を検証することが重要である。